会　議　録

１　会議名

令和４年度第１３回直江津区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

・直江津屋台会館への上越観光コンベンション協会事務所の移転について（公開）

・地域独自の予算事業の一覧について（公開）

【自主的審議事項】

・消防団のあり方について（公開）

・直江津まちづくり構想について（公開）

３　開催日時

令和５年２月２８日（火）午後５時３０分から午後６時３２分

４　開催場所

上越市レインボーセンター　多目的ホール

５　傍聴人の数

０人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：　青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、田中　実、田村雅春、古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者２名）

・施設経営管理室：　青柳副室長、内田係長

・事務局：　北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

８　発言の内容

【中村センター長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

・挨拶

・会議録の確認：坂井委員、竹田委員に依頼

議題【報告事項】直江津屋台会館への上越観光コンベンション協会事務所の移転について、担当課へ説明を求める。

【施設経営管理室：青柳副室長】

・挨拶

事務所移転の時期は４月１日となるが、上越観光コンベンション協会は、高田城址公園観桜会の対応があるので、事務所の完全移転は４月末までになる見込みである。それまでの間は、施設管理に必要な最低限の人員を配置する予定である。事務所として利用する範囲は、過去にＪホールディングス株式会社が使用していた部屋の一室になる。移転の経緯としては、上越観光物産センターは、施設の老朽化が非常に著しく、今後の修繕に多額の費用がかかる。これに加え同施設で特産品販売を行っていた有限会社上越商業サービス公社から撤退の申し出があった。これを受けて、本年４月から施設を休止することになった。そのことから、同施設で事務所を構えていた上越観光コンベンション協会と移転先について協議した結果、直江津屋台会館への移転を決定したところである。今後については、上越観光コンベンション協会の職員が常駐することになるので、連携して施設の利用促進や観光情報の発信に資する取組を実施したいと考えている。また、上越観光コンベンション協会からも、直江津地区の賑やかしを図りたいという申し出もあるので、意見を聞きながら、いろいろな取組をしていきたいと思っている。ただ、今現在、具体的な取組が決まっているわけではないので、具体的な取組が決まり次第、こちらに伺って説明をさせていただければと思う。

【青山会長】

説明に対し、質疑を求めるがなし。

―　施設経営管理室　退室　―

次に【報告事項】地域独自の予算の事業一覧について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・資料№.１「令和５年度地域独自の予算」に基づき説明

【青山会長】

説明に対し、質疑を求めるがなし。

次に【自主的審議事項】消防団のあり方について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

前回の協議会で危機管理課から消防団の取組についての説明を受けた。その中で、後日回答することとなっていた、常備消防の現場到着までの平均時間について、危機管理課から回答があったので報告させていただく。

常備消防の現場到着までの平均時間は、令和４年の平均時間で、上越市内全４０件では、９．２分となっている。前提条件は、火災指令で出場した常備消防の出場から現場到着までの平均時間である。

・資料№.２「『消防団のあり方』に関するアンケートについて（事務局案)」に基づき説明

【青山会長】

説明に対し、質疑を求めるがなし。

では、アンケートは事務局案のとおり実施することとする。

次に【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・資料№.３「福島城を愛する会との意見交換の結果について」に基づき説明

会長、副会長から補足があればお願いしたい。

【磯田副会長】

青山会長と私で意見交換させていただいた。やはり、会の主体がご高齢になってきていて、なかなか自主的に動いていけないという悩みとともに、受け入れてほしい町内会も積極的にこの会に関わりを持ちたいという感じではない。草刈の件については、行政から幾ばくかの町内会の活動として費用が出ているが、石碑のエリアは市の所有でなく、費用が出ないような話が会のほうからあった。会の中でも、意見が固まっているわけではなく「早く手放したい、誰か後継の団体が引き取ってくれればありがたい」という感じの方もいるし「いや、もう少し自分たちで何とか新しい切り口で向かっていこうよ」というふうに思われている方もいらっしゃって最後のまとめとして、もう少しやれることと依頼することを整理して、意見交換してみようという話があった。ただ、現実問題としては、会が何とかできるかと言われると難しい問題なのかと思っている。協議会の

自主的審議として取り扱っていく視点とすれば、資料を眠らせてしまう。人が来てはいるが、だんだん少なくなってきている。学校の授業や社会見学的な形で少し入っては来ているが、通年にわたってコンスタントに来るような状況ではないことも確かなので、維持管理とそこに人を貼り付けることは難しい状況ではある。ジオラマだけでも何とか保管できないかという話も出たが、あそこにある資料を塩漬けにしないためにはスペース的にどこか別な場所に集約して、もっと見てもらう機会が増えるような場所を考えるのも一つの手だと思う。そういうことを、会の人たちと一緒に議論して、地域協議会が議論して何か行政に働きかけていくというような動きをしないと、独自で何とかするのは難しいという印象だった。今後、地域協議会がどのようにこの問題を取り扱っていくかは、次の会議あたりでの議論になるのかと思う。

【田村委員】

資料館を見学して非常に立派な資料があるのだと感じた。問題は、古城小学校が閉校となり、ガス・水道・電気・トイレがないこと。これはもう資料館として致命的である。いくら立派で歴史的価値があっても、そういう点では、移すのが最適だと思うが、それを移せないのはなぜなのかと思う。市との間の協議が、例えば、埋蔵文化財センターに移転するとか、佐渡汽船も建物を一部返還したような話を聞いたが、その辺で検討できないのか。そういうことを、地域協議会としてアドバイスすることができないのか。その辺も含めて考えたい。私も、実際に行って感激した。非常に素晴らしいものを持っているので、何とか残してほしいという思いが強い。

【青山会長】

他にどうか。

現場の担当者のやる気はあるが、町内会の支援をなかなか得ることは難しいという問題がある。埋蔵文化財センター等に三城物語としての提案を働きかけたほうがいいのではないかという話もしたが、高齢のためにちょっと踏ん張りがきかないというか、バックアップすると言っているが、何も答えてくれないので非常に難題である。町内会長は賛成だが、他の人は反対しているようなので、我々の押す力も半減する。引き続きこの状況を確認しながら支援できることは、支援していくというふうに地域協議会で決めていくということにしたいと思うが、いかがか。

【田村委員】

町内会と福島城を愛する会は別である。町内会に引き継いでほしいというのは、私は

無理だと思う。町内会長が今までずっと携わってきたから賛成だと言っても、地域住民はそうは思わないかもしれない。それが強いのではないか。すべての人が会員であればいいが、やはり無理強いではないかと思う。

【青山会長】

地元の史跡資料は、地元が頑張らなければ駄目だと思う。引き続き、状況を確認しながらバックアップできるところはバックアップしていきたいと思う。

【増田委員】

この会はある時期、全市から会員を募ろうという動きがあった。中には一生懸命やっている人もいる。最初、町内会の有志で立ち上げているというところに問題があって、町内会を巻き込むことについては、町内会としてその活動に支出を伴うようなことについては賛同できないという事情があって、後ろ向きになっている。本当は、全市から関心のある人に集まってもらって会員になってもらい、新しい組織をつくれば良いのだが、この組織自体がそういう発想もないので、なかなかできない。リーダーシップをとれる人がいないという現状なので、会長が言われたように、状況を見つめながら、一つ希望があるとすれば、磯田副会長が提案している直江津グランドデザインの中に組み入れていただいて、もう少し、親密に意見交換をしながら、知恵を出していくというほうがいいのではないかと思う。この中に書いてあるが、市にも承知してもらうとともに関わってもらったほうがいいということももっともである。本来これは、上越市の歴史なので、文化行政課が力を入れてやらなくてはいけない。市議も動いた時もあるが、それだけで終わっているが三城物語は消すことができないし、これで、福島城を消したら非常にまずいということになる。市議も県議もいるので、グランドデザインの中で連携しながら、何とか盛り立てていきたいと思う。そのために地域協議会の皆さんからもご理解とご協力をいただいて、適宜適切に動いていくというふうにしていったらいいのではないか。

【古澤委員】

観光のスポットとして福島城を紹介して、市の観光交流推進課が具体的に積極的に押していくということが一番肝要なのかと思っている。その中で、町内会、役員の方々がいろいろな部分で大変だというネックがある。それをやっていくのに行政の力を借りる。そして、市議会議員が２名いるので、地元の中でどうするかを地域の人に声をかけてより良い方向に持っていったほうが良いかと思う。新潟に行くとバスも出ているので、そのれくらい力を入れても良いのではないかと思っている。私も今まで福島城資料館を見

たことがなかったが、前回行ってみて、これは素晴らしいところだと思った。川原町に福島城の看板が立っているので、アピールするためには行政、市議会議員、地域協議会、住民の皆様方が一体となった取組を構築していけばいいと思っている。

【増田委員】

埋蔵文化財センターのところに観光物産センターを移そうという話も出ているが、それと絡めて、文化、歴史的なものを作ろうという構想があるらしい。だから、そういう構想があるとすれば、ぜひ三城物語の一環としてそこに絡めていただいてということで、場合によって適宜適切に地域協議会としても関わりを持ったらいいのではないか。いずれ、情報は入ってくると思うのでそれに合わせて一緒に考えていくというスタンスがいいかと思う。

【久保田委員】

結論的には会長が言われるとおり、今後も継続してということに賛成である。まず１つは、市が旧古城小学校の建物をどのようにしていこうとしているのかということである。この資料を収めておく場所、展示して公開して、皆さんから来て見ていただける場所と管理していく人の問題が課題になってきていると思う。先ほど、観光コンベンション協会が直江津屋台会館に移るという話が出たので、ここがいいのではないか。高田城に関しては歴史博物館、春日山城に関しては、埋蔵文化センターにそれぞれお城の資料がある。直江津は、そういうところがないので、ライオン像のある館ということも考えられるが、直江津屋台会館であれば、うみがたりに来た観光客がふらっと寄れるような場所であると思う。場所の問題は行政とのやりとりがこれから必要なのではないか。そちらのほうに働きかけをしてもいいのではと感じた。また、管理する方たちは、半分ボランティア的なところがあるが、歴史的なことでもあるので、地元の歴史家の方から講話をしていただく、また、人を集めていく、そんな手だてをしていってもいいのかなと思った。高田のお城の場合は、専門の先生が定期的な形で歴史めぐり的なイベントを行うなど結構地元の歴史家を活用している。福島城に関してもそういう活用もしながら、まちめぐりを検討してもいいのではないか。直江津屋台会館に展示ができるならばコンベンション協会に入館のところを手伝っていただければいいのではないかと思う。

【青山会長】

福島城の件は継続していくこととする。

皆さんから他に何かあるか。

【田中実委員】

まちづくり構想について、一言申し上げたい。皆さんもご承知だと思うが、この上越地区で大型プロジェクト計画が稼働しようとしている。今更、協議しても遅いのではないか。１８年前に天地人がテレビで放映されて、テレビの力で地元の上杉謙信公が脚光を浴び、また、春日山城址が見直され、1日当たり1万人強の観光客が押し寄せた。観光客の訪問があっても、上越市の体制が悪く、駐車場、トイレ、食事をする場所さえなかった。それで、地元団体でこの状況ではよくない。春日山をどのようにするか、いろいろ協議し他の観光地へ自費で研修に行ったり、国会図書館で春日山の資料を集め、資料を活用し春日山アプローチについて企画を作成し提案した。また、商工会議所も新幹線開業に合わせ、「やろっさ！戦略」と題し、企画書を提出したが１度も活用されなかった。地元の祭りである謙信公祭を盛り上げるということを考えガクト出陣のお願いをした。確か４回目であったと思うが、ガクトさんから「上越市民の皆さんは、私が何回か出陣したが、上越の観光についてどのような観光地にするか考えておられるのですか」という質問に行政側として、何ら返答ができなかったことを思い出した。たまたま、体制が交代されて、市長は通年観光を打ち出したが、何ら変化なく、令和５年度の資料で、観光は高田、直江津、春日山に任せるという話である。これは市民に丸投げしたということである。企画、経営計画は、十分予算づけしていただき、市民の協力を求めるものではないか。チャンスがあったにもかかわらず、遅れてしまった。地域協議会で計画し、我々の考えかたと一致すれば喜んで協力する。最後に、私は直江津のまちづくりについて反対しているのではない。時すでに遅いということをお話させていただいた。

【増田委員】

まちづくり構想に関連すると思うが、令和５年度の予算の中で、直江津のまちなか居住について、何か予算化がされているという話を聞いた。令和４年度に高田の中で、まちなか居住の予算、国からの補助もあって事業を実施し、それを直江津にも拡大しようという動きらしい。予算書に載っているようだが、何かわかったら、お聞かせ願いたい。

【中村センター長】

まちなか居住については、都市整備課が担当しており、モデルの町内会３つを対象として、町内会ごとの説明会や、意見交換のような形で進めていると聞いている。増田委員が言われた予算書に載っているのは、それをステップアップした形で予算がついているものかと思うが、都市整備課から情報はきておらず、情報を掴みきれていないという

状況である。

【古澤委員】

私のわかる範囲で説明させていただく。まちなか居住事業は、久保田委員が町内会長協議会長の時に直江津に話がきたものである。空き家を利用して、いろいろな部分でまちづくりをするということで、例えば、直江津は、建物がウナギの寝床で長くなっている。そのうち空き家や土地をうまく利用しながら一軒のものにする。また、転居してきた人が住みよいまちづくりをする等いろいろな構想が入っている。まずは高田でやっていて、次は直江津ということで、昨年度は、あけぼの、天王町、福永町が地域指定されている。そこで、何回か会議を持って自分たちの町の良いところ、悪いところ、どういうまちにしたいかというところで話し合っている。ただ、具体的には進んでいないと聞いている。それを今年また予算をつけて継続するということある。まちなか居住について、富山の大学の先生の話を聞いた。素晴らしい内容で、本当に実現するのかと半信半疑だったが、それはまだ実を結んでいないし、実行された機会もないので、継続していくという形だと思う。

【磯田副会長】

田中実委員のまちづくり構想についてのお話で、「時すでに遅し」という言葉もあったが、それを言ってはおしまいという感じで、遅きに失していることは確かだし、いろいろなことを当時は検討してきたけれども、なかなか実現していかない。住民、市民の人たちのコンセンサスを得られていかないというのは、ある意味では、政治も悪いし、市民も悪いということだと思う。黙ってしまうと何もできなくなるので、考えていることをまず主張して、あるいは、いろいろ方々に自分の考えを示して、そこで議論していきながら、何とかいい方向にしていかなければまちづくりはできないと思っている。そういう意味では、地域協議会の中で、いろいろな考えを持つ方がいて、そこで議論していく、また、そこで議論したことを、行政なり市民に対して提示していくのが、我々の役目なのかと思っている。直江津区のまちづくり構想としては、これからも活発な議論をしていきながら、それぞれの思いをこの会議の中でぶつけていただければと思っている。

また、増田委員のお話で、もともとまちなか居住の推進のプロジェクトは、県の予算があって、それを市が直江津地区のまちなか居住でということで、県に申請して、承諾を得てきたが、なぜか高田から始めている。行政にうまくやられた感じを持った。最初に高田がやって、去年から直江津に入ってきていて、３つの町内とお話しながらモデル

事業として何か作っていこうと。一つはにぎわい創出という部分の商業絡みの部分も含めたまちづくり。それから、まちなか居住という２本の検討を進めているところで、そのモデル事業をどのようにしていくのかは、私も見えていない。これは、都市整備課から説明に来てもらっても良いのではないか。

【古澤委員】

空き家を住みやすい居住地にして、公園を作ったりという発想である。長野から空き家を利用して、移住された方がいた。天王町あたりは日本海が見えるから、そこの土地を買って家を建てるということで、人口が増える。そこが狙いである。だから、構想は素晴らしい。あけぼのの地域は、すばらしい設計図面ができていて、商店街も整備しながらやるというような形になっている。ただ、一気にやるのは難しいと私は思っている。

【青山会長】

引き続き確認をしていきたいと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

上越市の庭球コートの廃止の諮問についてである。前回１月１７日に審議していただき、当該施設の廃止については支障なしと判断し、土地所有者との協議について、双方が納得する形で進めてくださいという意見を付して、１月１８日付けで答申した。これを受けて、１月２６日付けで、市から通知があった。諮問のとおり上越市庭球コートを廃止することとし、令和５年上越市議会３月定例会に所要の条例案を提出するとともに、土地所有者との協議については、理解が得られるよう進めるという旨の通知が来たので報告させていただく。

・次回協議会：３月２２日（水）午後６時３０分から

【青山会長】

その他、皆さんから何かあるか。

【増田委員】

確認だが、例年だと地域活動支援事業の実施団体の報告会と、次年度の説明会があったが、今年は開催しないという認識でよいか。

もう１つは、今、地域活性化の方向性についてという話があった。令和５年度の予算は、もう議会に提案されているので、これで決定すると思うが、令和６年度の予算について、地域独自の予算という名前だが、その地域独自の予算が何なのかということは、

ごく一部の人にしか知られていない。これをどうやって直江津の住民の皆さんに知っていただくかを考えないといけないと思う。そんなに急がないが、そんなことも考えていく必要があるのかと思っている。

【中村センター長】

まず、地域活動支援事業の報告会については、ご案内のとおり今年度で幕を閉じることから、報告会自体は設けないということにさせていただいた。なお、３月２５日発行の地域協議会だよりで、今年度の事業を報告しながら、地域活動支援事業が幕を閉じること、それから、そこに合わせて令和５年度から地域独自の予算をスタートするということをお知らせしたいと思っている。

また、地域独自の予算については、自治・地域振興課のほうでも、ホームページや広報での市民全体への周知を検討しているという状況である。

もう１点、地域活性化の方向性については、決定した区もいくつかある。春先に資料で示したが、直江津区の良さ、特性をいかして、こういうことを目指していきたいというキャッチフレーズ的なものを作っていただくことになる。決して、「こんなことやります」とか、イベントとか、具体的なことを挙げていただかなくてはいけないというものではない。次回、資料を示しながら、このような形で作っていただきたいという形を示したい。市では、今年度中に着手してほしいということで、完成に期限を設けていない。今まで課題から地域を見つめてきたが、魅力や良さから地域を見つめることによって、まちづくり、地域づくりを考える１つの視点にしていただければと思っている。

【田中実委員】

次回、質問しようと思っていたのだが、令和４年度までの地域活動支援事業の検証をするべきではないかと思う。一般市民もホームページで見ていて、一つの例だが、１０年ぐらい前から、百日紅の木を植えてあると提案者が言っているが、実際に見ると何ら変わりがない。１０年ぐらい経って、あれだけの本数を植栽するということになれば、かなりの百日紅の木が群生しているはずである。そういう件もあるので、全部でなくても、その中からポイント的に検証すべきである。地域独自の予算についても、質問したいが、そういったことも踏まえて、次回も時間をいただきたい。

【田村委員】

今まで買った物品は、どういう帳簿になされていて、どのように管理されているのか。そういうことも含めて、地域活動支援事業が終わったのだから、残してほしい。そうい

うものがきちんと残っているかどうか。ある団体の話を聞くと、どこかにいってしまった。そういう管理のところもある。その辺はどうなのか。信用するしかないのか。かなりの物品を買ったところもあるから心配しているのだが、やはり、市民の皆さんはそういうことが気になる。

【中村センター長】

提案団体が実績報告を提出される際に、備品について適切に管理してほしい旨を伝えさせていただく。

【青山会長】

・会議の閉会を宣言

9　問合せ先

自治・市民環境部　自治・地域振興課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。